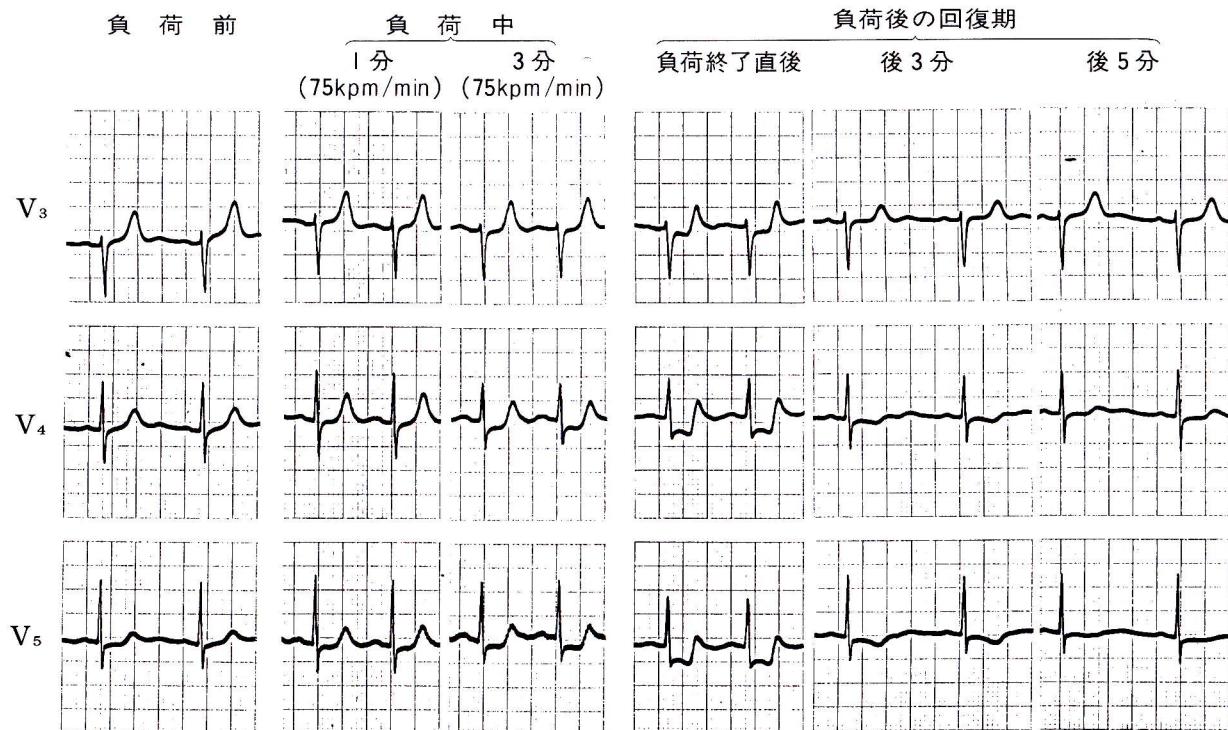


症例 73

●62歳 男

●労作性狭心症の患者、最近発作の頻度が増加してきた。自転車エルゴメータ負荷時の心電図である。3分の時点で胸痛が誘発されている。



1) [症例71]と比較して労作性狭心症の重症度はどうか。

運動負荷試験陽性

負荷直後的心電図では 1.5 mm , V_4 で 3 mm , V_5 で 3 mm の水平～下向型のST低下を認める。負荷陽性である。 V_4 , V_5 では負荷終了後3分の時点でT波の陰性化を認める。一般にST接合部の低下は負荷直後に最も強いが、T波の平低化～陰性化は負荷終了後2～4分にみられることが多い。

本症例は〔症例71〕に比較して、より早期に、しかも非常に軽い負荷量で発作が誘発されているため、より重症であるということができる。負荷心電図のST, T変化は心筋虚血の程度、広がりを反映はするが、負荷量をはじめとした他の多くの因子も関与しているため、心電図変化だけで個人間の比較をしてはいけない。